

# 頭陀袋

43

平成二十八年一月号

発行 中山かんのん

恩林寺



中山中学下、電話三四一―二四五

\*遠回りでも自分らしく

今の世の中、早いこと、上手なことがよいこととされています。学校の成績も出来高主義で、考える過程を大切にせず、つまずきながらゆっくり問題を解く余裕がありません。何もかも手早くできるように訓練されているようです。家庭の中でもいかに主婦の仕事を短縮するかが評価の対象となります。家庭の仕事を細かく隅々まで気をくばればいくら時間があっても足りません。人はどこかにこだわりをもつてそれをこなしています。自分の気持ちにいいリズムややり方を大事にしているものです。私たちは早くて正しいことがよいことだと思ひ込んでいます。今、ヨーガや瞑想、座禅の時間を持つことが見直されてきております。焦らずあわてず自分のすることを大事にして一日一日楽しく暮すこと、自分にも家族にもゆとりをもつてにっこりするこゝろで、たとえ遠回りでも自分らしい生き方ができると思ひます。忙しい朝に少しの時間を取つてゆつたりとお経を唱えましょう。

\*茶の湯の世界

都会の企業戦士の間で今、茶の湯が流行つていゝるさうです。お茶という昔は、お茶にお花、花嫁修業のように言

われておりましたが、そのまた昔は武士の心得としてのお茶が普通でした。お茶の稽古には、非日常の空間があります。足袋や靴下を白いものに変えて手を清め、懐紙を用意します。おなじ喫茶でもコーヒータイムとは違ふ前置きがあり一服のお茶を飲むまでには席に座つてからゆつくりの精神統一があります。一服のお茶をいただくためにはいろいろな道具、亭主のお点前を通してお互いの心使いを感じ、感謝していただく行程が、日常の忙しさ、早いテンポの生活から離れ、ゆつくりとした時間を心と体にもたらしてくれます。対人関係など切迫した職場を離れ、自己を見つめなおす時間としては最適かもしれません。茶室の環境も、炭をおこし、香を焚き、湯を沸かす。その湯の沸く音さえも心にしみるような雰囲気味わえます。茶の湯の作法は、禅宗が基礎になつておりますので茶室でなくても、仏様にお花を供え、香を焚き、お経を唱へること十分にご自己を見つめ静かな心持になることができます。

\*三猿

日本語のごろ合わせから「見ざる」「聞かざる」「言わざる」は日本独自のもの、と思われがちですが、実は古代エジプト、アンコールワットにもみられるものでよく似た表現は世界各地にあるさうです。論語にも「礼にあらざれば視るなかれ」「礼にあらざれば聴くなかれ」「礼にあらざれば言ふなかれ」と、説いてあります。今年申年、よけいなことを見ない、聴かない、言わない、ように心して過ごしたいものです。